

5 キャッシュ・フロー計算書について

本市水道事業のキャッシュ・フロー計算書の状況は、次のとおりである。（単位:千円）

	平成26年度
1 業務活動によるキャッシュ・フロー	
当年度純利益	512,826
減価償却費	1,233,339
退職給付引当金の増加額	242,600
賞与引当金の増加額	46,782
貸倒引当金の減少額	7,636
長期前受金戻入額	△ 194,853
受取利息及び配当金	△ 5,663
支払利息及び企業債取扱諸費	152,483
固定資産除却損	24,530
固定資産売却損益	△ 2,204
未収金の減少額	15,475
その他流動資産の減少額	19,946
未払金の減少額	△ 115,242
預り金の減少額	△ 3,882
小 計	1,933,773
利息及び配当金の受取額	6,858
利息の支払額	△ 152,482
業務活動によるキャッシュ・フロー	1,788,149
2 投資活動によるキャッシュ・フロー	
有形固定資産の取得による支出	△ 2,118,674
有形固定資産の売却による収入	24,522
国庫補助金等による収入	365,641
投資活動によるキャッシュ・フロー	△ 1,728,511
3 財務活動によるキャッシュ・フロー	
建設改良費等の財源に充てるための企業債による収入	1,216,700
建設改良費等の財源に充てるための企業債の償還による支出	△ 668,942
他会計からの出資による収入	22,522
財務活動によるキャッシュ・フロー	570,280
資金増加額（又は減少額）	629,918
資金期首残高	2,750,002
資金期末残高（※この値は千円未満切捨て）	3,379,920

(注) 本市水道事業は、平成26年度から新会計基準を適用している。そのため、前年度決算額との単純な比較は行いがたいので、本年度の値のみを表示している。

新会計基準の適用により、本年度分から決算附属書類としてキャッシュ・フロー計算書(C/S)の作成が必要となった。新会計基準による長期前受金戻入や各種引当金に係る項目が見られる。C/Sでは、決算対象期間における現金及び預金の増減状況が、3つの活動区分におけるキャッシュフロー(CF)で表される。

本年度は、投資活動(有形固定資産取得)に支出する資金を、業務活動(営業)や財務活動(企業債発行)等による収入で調達し、資金期末残高は増加した形である。なお、財務活動では企業債発行収入が償還額を上回っている。